

## 14 地域おこし協力隊インターン

---

## 実施概要

- 【実施時期】 R4.10～ R4.12
- 【実施期間】 3ヶ月
- 【参加人数】 1人
- 【実施場所】 農家
- 【主な活動内容】  
農業振興に関すること

## 実施に至った経緯・事務の流れなど

これまで町では、短期就農体験などは取り組んできたものの、地域おこし協力隊の設置を行ってきていない状況であった。R3.4より地域おこしのインターン制度の設けられたことから、これまでの取り組みと同様な形で取り入れることができたため、円滑に導入することができた。また、各課役割分担により対応を行っている。  
(募集：政策部局 対応：産業部局)

## 実施による効果・メリット

短期間の地域活動を行うことで、本格的な地域おこし協力隊への移行がスムーズになっている。受入する事業者（農家側）も“インターン”としての位置づけを意識してくれている。しかし、明確なゴールや本人の目指すものがないと受入側としても対応に苦慮することもあるため、定期的な面談などにより双方合意の上、活動を継続している。

## 問合せ先

- 【担当課の連絡先】  
(所属) 政策調整課政策広報係  
(メールアドレス) mono@town.shiriuchi.hokkaido.jp  
(電話番号)01392-5-6161

## プログラムの内容

### ●1日目：オリエンテーション

- ・辞令交付式
- ・オリエンテーション
- ・関係機関などに挨拶



### ●2日目～1ヶ月目：農業振興活動①

- ・農業座学
- ・農業研修



### ●2ヶ月～3ヶ月：農業振興活動②

- ・農業座学
- ・農業研修



## 実施概要

【実施時期】 R4.6 ~ R4.9

【実施期間】 26日

【参加人数】 3人

【実施場所】

【主な活動内容】

ワークショップのファシリテーター、大学連携業務サポート、各種イベントへの参加

## 実施に至った経緯・事務の流れなど

・令和3年度に武蔵野美術大学と人材育成及び雇用の創出に関する協定を締結し、産学官連携プロジェクト実習において、大学生が当町に1カ月間滞在したことにより、町の課題と魅力発見に大いに繋がった。これを踏まえ、大学生が実践実習できる環境を整えることで、若年層の関係・定住人口の創出につながることから協力隊インターンの取組を実施した。

## 実施による効果・メリット

- ・自治体の今の現状を知ってもらうことで、地域おこし協力隊員になった時の業務などをイメージしやすい。
- ・地域おこし協力隊インターンを実施することで、採用前に人柄などを知ることができる。

## 問合せ先

【担当課の連絡先】

(所属) 農林課

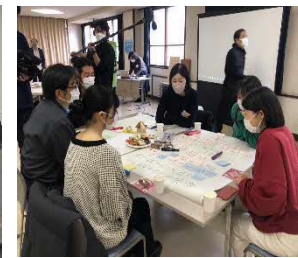
(メールアドレス) lgwan-rinmu@town.hokkaido-mori.lg.jp

(電話番号) 01374-7-1086

## プログラムの内容

R4.6.17~R4.9.16

- ・森町で実施した「木から始まる森づくりワークショップ」でのファシリテーター
- ・武蔵野美術大学の学生や森高校の生徒との連携業務サポート
- ・植樹イベントや町の祭りなどへの参加



### 実施概要

- 【実施時期】 R4.4～ R5.3
- 【実施期間】 随時
- 【参加人数】 4人(R4.10.1時点)
- 【実施場所】 大雪かみかわヌクモ、層雲峡オートキャンプ場等
- 【主な活動内容】
  - ・施設運営、商品開発、教育支援等

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

地域おこし協力隊の業務内容を任用前に体験することで、移住後の活動を具体的にイメージしていただくため。通年の随時募集としており、履歴書を提出していただいたのち、オンライン等で面接をし、採用を決定する。

### 実施による効果・メリット

地域おこし協力隊の業務内容を任用前に体験することで、移住後の活動を具体的にイメージできる。

### 問合せ先

- 【担当課の連絡先】  
(所属) 地域魅力創造課地域魅力創造グループ  
(メールアドレス) [teiju@town.hokkaido-kamikawa.lg.jp](mailto:teiju@town.hokkaido-kamikawa.lg.jp)  
(電話番号) 01658-2-4063

- 【プログラムの案内など】  
(webサイト) <https://www.kamikawork.jp/joinus/tryit/>

### プログラムの内容

#### ● 1日目：オリエンテーション

地域の生活関連施設や観光施設などを案内することで、まちの様子を知っていただくことや、町で暮らす人と交流していただき、インターン中の活動イメージを掴んでもらう。



#### ● 2日目以降：就業体験

興味・関心のある業種の就業先で勤務を行う。また、町内のイベントや町民と交流できる際は積極的に参加していただき、町のことはもちろんのこと地元住民の方との交流を通じて、まちについてより理解を深めていただく。



#### ● 最終週：活動報告会

インターン期間における感想や、協力隊に就任した際にはどのような活動をしたのかなどを発表していただく。





### 実施概要

【実施時期】 R4.7～R4.8  
【実施期間】 13泊14日  
【参加人数】 15人  
【実施場所】 東川町  
【主な活動内容】  
「写真の町」関係イベント運営、町民ワークショップ開催

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

東川町は、写真の町として文化によるまちづくりを進めている。まちづくりを進めるうえで、写真文化を軸とした文化発信や、町民に対する文化体験機会の創出は重要であることから、それら取り組みを行う人材をインターンとして受入し、都市部人材のノウハウを活かした活動を行うことで、地域おこし協力隊に結びつけ、地域に根差した人材を創出するため実施。

### 実施による効果・メリット

東川町のまちづくりに関わる活動を通じて、まちへの理解や町民との交流により、未来の地域おこし協力隊結びつく関係人口化が図られる等

### 問合せ先

【担当課の連絡先】

(所属) 企画総務課

(メールアドレス) sousei@town.higashikawa.lg.jp

(電話番号) 0166-82-2111

### プログラムの内容

#### R4.7.22～R4.8.4

「写真の町」のメインイベントである写真甲子園やフォトフェスタの実施期間に合わせて、文化発信のための写真関連の展示や町民などを対象とした写真展示等を実施。

町民ボランティア等との連携により、フォトフェスティバル町民参加企画での運営補助や東川賞受賞作家作品展内の作品展示ワークショップ等を実施し、展覧構成から作品展示、フォーラム等の実施までを行う。

その他、東川町内での町民交流や町内観光資源について視察調査を実施。(大雪旭岳源水や忠別ダム、町内飲食店等)

#### 【インターン概要】

7月22日～8月4日  
現地調査・ボランティアとの連携  
交流会の実施

7月22日～7月29日  
フォトフェスティバル受賞作家作品展  
展示ワークショップ

7月30日～7月31日  
展示案内・受賞作家フォーラム参加  
町民連携企画「ふらっとPHOTOテラス」  
参加  
町内祭事参加

8月1日～8月4日  
事後研修・町内、  
近隣市町村観光資源視察



## 実施概要

- 【実施時期】 R4.8.17～ R4.9.30
- 【実施期間】 21泊22日～29泊30日（計45日）
- 【参加人数】 4人
- 【実施場所】 北海道広尾郡広尾町（商店街）
- 【主な活動内容】
  - ・地域高校生と協力し商店街を明るくするプロジェクト。
  - ・複合学級の小学生に放課後レクリエーション
  - ・地域産業などの体験活動をSNSなどに情報発信（当人アカウント）

## 実施に至った経緯・事務の流れなど

広尾町の商店街は現在、閉店した店が多く、町内の人も利用率が低下し、町外からの人々においては素通りしてしまうことが問題となっている。その中で商店街を再び明るくするため、町外からアーティストの方々を呼び、商店街で地域の方々を巻き込んだイベント活動などを行うことにより町の商店街を再び明るくしたいということからこの活動の実施に至った。

## 実施による効果・メリット

商店街のアートにおいては考案当時1～2箇所を想定していたが、参加人数が上限の4名集まった事により合計4箇所のシャッターにアート活動を行うことができた。初見の方々が暗いイメージを持つことが多かった商店街のイメージ向上につながったという意見が多数見られた。また、地方にはあまりいないアーティスト・美大生の方を呼ぶことにより、地域学生達の刺激・学習意欲の向上につながったと考えている。

## 問合せ先

【担当課の連絡先】  
（所属）水産商工観光課 商工観光係  
（メールアドレス）shoko\_job@town.hiroo.lg.jp  
（電話番号）01558-2-0177

【プログラムの案内など】

<https://www.town.hiroo.lg.jp/boshuu/sonotaboshuu/tiikiokosi-intern/>

## プログラムの内容

### ●初日～10日目：ミーティング

高校生たちへのアート指導並びに作業手順などの指導（描きやすさやペイントの色の方法など）



### ●11日～20日目：下地作成・指導

アート活動での下地処理と、今後のイラスト活動のための練習活動。その他地域小学校レクリエーションなどを行う。



### ●21日～30日目：地域ペイント体験、他

- ・アーティスト考案の地域小中高校生を対象としたアートペイント体験会活動の準備・体験会を行う。
- ・その他、酪農体験や資料館見学、昆布体験など、広尾町がどのような町かを知るための体験活動などを行う。



### ●31日～45日目：放課後レクリエーション

- ・ペイント体験で描いた作品の仕上げ作業。
- ・地域小学校の放課後レクリエーションで10月のハロウィンに向けたイラスト活動を行う。



## 実施概要

【実施時期】 R4.4 ~ R.4. 6

【実施期間】 3ヶ月

【参加人数】 1人

【実施場所】 雄勝地区

【主な活動内容】

「雄勝薬草園」のガーデンデザインに参加し、西洋ハーブの植栽技術を習得するほか、ガーデンで栽培可能でニーズのある花苗やエディブルフラワーを検討し、年間の栽培サイクルの企画と実現性を検証する。

## 実施に至った経緯・事務の流れなど

一般社団法人雄勝花物語は、令和3年度「復興庁土地活用ハズオン支援事業」を受託し、令和3年6月から「雄勝薬草園」の造成に着手している。令和4年度も薬草園は“癒しの空間づくり”と新たな収益事業の構築を目的として活動しているが、担い手となる人物が不足しているため、本プログラムを実施し、インターン生の受入を行った。

## 実施による効果・メリット

・インターン期間中に、新しい職場環境へ適応することができ、事業内容と自己の適性が一致することを確認できた。さらに今後3年間の活動目標とその目標の実現に向けた見通しを持つことができたので、正式に地域おこし協力隊員になってからも、プロジェクトをスムーズに進めることが出来た。

## 問合せ先

【担当課の連絡先】

(所属) 復興企画部 S D G s 移住定住推進課

(メールアドレス) [issdgs@city.ishinomaki.lg.jp](mailto:issdgs@city.ishinomaki.lg.jp)

(電話番号) 0225-95-1111

## プログラムの内容

### ● 4月：薬草園のガーデンデザインの参加及びエディブルフラワーとハーブの栽培技術の習得

・薬草園内のハーブの種類選択と栽培技術の向上を目指すとともにハーブの年間栽培計画を立案した。

①ガーデン内の空きスペースを活用しエディブルフラワーハーブを植栽。

②薬草園内のハーブガーデンに教育旅行ボランティア中学生に植栽指導と自身の技術向上を試みる。

③エディブルフラワーとハーブの年間栽培スケジュールを作成。



### ● 5月：選択プロジェクトの検証（売上に繋がる花苗の検証）

・毎年繁忙期（6月）はガーデン内に咲いている花をお買い求める傾向があり、開花時期に合わせ花苗を栽培し準備すれば売上アップに繋がると想定。繁忙期迎える前に準備作業を行った。

①一年草、多年草20種類以上100点栽培準備

②新たにハーブコーナー設置。ハーブ苗100点以上栽培準備

③統一したプライスカードの設置



### ● 6月：選択プロジェクトの検証（売上に繋がる花苗とエディブルフラワーとハーブの検証）

①繁忙期に入り、5月に栽培準備していた花苗を来客者に対して積極的に対話・接客して販売するとともに、顧客のニーズを探った。

・その結果、前年比2倍の売り上げがあり、今後の事業展開に希望と自信を持つことができた。

②石巻市内のレストランやカフェのエディブルフラワーとハーブの需要の市場調査を4店舗視察。

・お店や料理の雰囲気、シェフの要望や情報交換等を行い、今後の栽培に活かす情報を得ることができた。





## 実施概要

【実施時期】 R4.4～R5.3

【実施期間】 3週間～3か月

【参加人数】 7人

【実施場所】 市内就労支援施設、笠岡市観光協会、道の駅笠岡ベイファーム、海の校舎、井笠鉄道記念館、フリースクール育海、エブリハート、笠岡市教育委員会 等

【主な活動内容】

精神障害者のグループホーム設立に向けた予備調査、道の駅でのアンケートと観光協会公式LINE立ち上げ、廃線の活用調査、不登校支援に関する情報発信、婚活に関するイベント、耕作放棄地の利活用の検討 等

## 実施に至った経緯・事務の流れなど

現役の協力隊から、都市部の若者で地方での起業を考えている人となりができていて、フィールドの提供ができないか相談があった。協力隊本体でいきなり3年間は抵抗感があるので、インターンで地域の状況などを把握してもらうこととした。

応募があれば、一次選考（書類審査）を行い通過者に対して二次選考（面談）を行う。二次選考通過者と期間の相談をしながら任期を決め委嘱する。任期中は活動報告を提出してもらい、それによって報酬額を計算する。インターンへの参加は協力隊応募の条件にはしていない。

## 実施による効果・メリット

協力隊になる前に、この地域で何がどこまでできるかイメージがつかみやすい。地域にとっても、事業や応募者の人となりなどをみながら受入可能かどうか考えることができる。本体の協力隊ほど構えた課題ではなく、ちょっとした課題を相談できる。

## 問合せ先

【担当課の連絡先】

（所属）政策部定住促進センター

（メールアドレス）teijyuu@city.kasaoka.lg.jp

（電話番号）0865-69-2377

【プログラムの案内など】

（笠岡市HP）

<https://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/teijyuu/42353.html>

## プログラムの内容

### ● 4月18日～7月17日：高村颯さん

新しい地域での精神障害者福祉の形を作り出すことをめざし、協力隊応募の前に現地で実現できるか関係者への聞き取りなどを行った。

### ● 5月1日～7月31日：木嶋裕太さん

笠岡市内で最も観光のお客さんの集まる道の駅笠岡ベイファームからの市内への周遊拡大の可能性を探るためのアンケート調査や観光協会のLINEアプリのローンチ。東大生（本人も）と地域を結ぶプログラムの笠岡での実現を目指した。

### ● 7月4日～10月3日：虫明真魚さん

婚活イベントに代わる結婚推進事業の実施を計画。コロナの感染拡大に伴いいくつかイベント中止となったが、新しいコンセプトのニーズもつかめ、協力隊本体への応募につながった。

### ● 8月13日～9月2日：小川春樹さん

市内の廃線となった鉄道の記念館を中心に全国の鉄道ファンが集まることに目をつけ、廃線跡の遺構を調査し知識のない観光客でも楽しめるもの考えた。来年度協力隊本体への応募も考えている。

### ● 8月8日～11月7日：森下至子さん

全国的に増加傾向にある不登校について、当事者やその保護者などに向けた県内の不登校支援の情報をまとめたサイトなどを作成することで、個別にその児童・生徒にあった支援につなげる。





## 実施概要

【実施時期】 R4.9.15～R4.10.14

【実施期間】 1カ月

【参加人数】 1人

【実施場所】 雲仙市内の農作地

【主な活動内容】

種採り農家に従事し、種採り農業を実践することにより、種採り農業に関する知識やスキルを習得する

## 実施に至った経緯・事務の流れなど

種採り農業は雲仙市の特色の一つで、種採り農業を目的に雲仙市を訪れる都市部の人達が増えており、種採り農業を関係人口創出事業のコンテンツの一つとしている。

種採り農家の担い手不足と、雲仙市の関係人口を増やすために、種採り農業に関する地域おこし協力隊の応募につなげるため、地域おこし協力隊インターンを実施することになった。

## 実施による効果・メリット

・協力隊の場合、住民票の異動と1年以上の期間という高いハードルのため応募につながりにくかったが、インターンであれば気軽に体験できるので、応募者数が増加したり、雲仙市に関わりを持つ人が増加した。

## 問合せ先

【担当課の連絡先】

(所属) 総務部政策企画課

(メールアドレス) kikaku@city.unzen.lg.jp

(電話番号) 0957-47-7709

【プログラムの案内など】

市ホームページに募集要項を掲載

(募集期間の終了にともない、掲載も終了している)

## プログラムの内容

### ● 1日～19日目：種採り農業の実践

種採り農家に従事し、種採り農業を実践することにより、種採り農業に関する知識やスキルの一部を習得することができた



## 実施概要

【実施時期】 R4.8～ R4.9  
【実施期間】 60泊61日  
【参加人数】 3人 (8/1～9/30、8/18～9/30、9/16～9/30)  
【実施場所】 熊本市西区役所河内まちづくりセンター  
【主な活動内容】  
4つの地域課題（空き家の増加、地域の魅力の発信力強化、地域住民の意識の希薄化、耕作放棄地の増加）より1つ以上を選択。

## 実施に至った経緯・事務の流れなど

人口減少、少子高齢化が著しい熊本市西区河内校区、芳野校区において、様々な地域課題が発生していることから、当該制度を活用し、地域外から隊員を迎え活動することによって、地域課題解決に向けた住民の意識の醸成を図り、その一助とすることを目的としている。募集にあたっては、住民代表によるWGを結成。地域課題の設定から活動プログラムの作成、選考に伴うオンライン面接についても参加してもらい、住民の当事者意識を醸成した。

## 実施による効果・メリット

- ・まずは地域おこし協力隊インターンを受け入れ、一緒になって活動することで、地域住民の中に本格的な地域おこし協力隊を受け入れる機運が醸成された。
- ・地域外から隊員を迎えたことにより、住民では気付かない、地域の魅力等を発掘できた。
- ・地域課題解決のために、住民がすべきことがある程度明確化した。

## 問合せ先

【担当課の連絡先】  
(所属) 熊本市西区役所区民部河内まちづくりセンター  
(メールアドレス) [kawachimachizukuricenter@city.kumamoto.lg.jp](mailto:kawachimachizukuricenter@city.kumamoto.lg.jp)  
(電話番号) 096-276-1111  
【プログラムの案内など】  
(PROJECT INDEX) <https://www.project-index.jp/intern/24810>

## プログラムの内容

### ●1日～20日目：住民ヒアリング、情報収集

取組む地域課題（空き家の増加、地域の魅力の発信力強化、地域住民の意識の希薄化）について、実際に住民がどのように思い考えているのか等のヒアリングを実施。



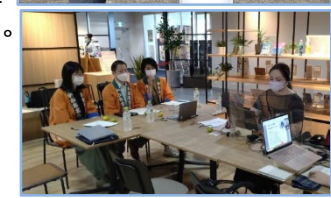
### ●21日～48日目：各課題への取組み (空き家の増加)

地域を回り、空き家を調査。状態のよい空き家について、利活用を含め所有者へ説明し、空き家バンクへの登録等を促す。その他、登録へ向けての片付け、申請書類の作成を補助。



### (地域の魅力の発信力強化)

Facebook等各種SNSを活用し地域の情報を発信。また、移住促進のYouTubeライブへ出演するなど、地域のPRを実施。



### (地域住民の意識の希薄化)

地域のキーパーソンへのヒアリングや地域住民及び地域外の住民に対しアンケートを実施。移住者に対する考え方や当該校区が周りからどのように思われているのかを数値化。調査から浮かび上がった課題を整理。



### ●59日目：活動報告会

これまで取組んできた内容について、地域住民に向けた活動報告会を実施。2か月間の活動から見た地域の状況、課題について報告。



### ●60日～61日目：挨拶回り

これまでの活動について、地域住民へ挨拶回り。